

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科		2020年度	前期・後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	デッサン基礎 I	実習・実技	永井俊一	2
授業の到達目標	デッサンの具体的な手順を理解する。デッサンをするうえで重要な要素(構図、光と影)を理解する。明暗の観察。背景が絵画において重要な要素であることを学ぶ。素材の違いによる表現の違いを体感する。			
授業の内容	<p>デッサンは合理的な手順をふめば三次元にある事物を紙面に置き換えることができる。最初の授業では、木炭の素材とその扱い方及びデッサン用具の使い方やモチーフをよく観察する方法から始めていく。西洋画のアカデミックなデッサン教育の柱となるギリシャ・ローマ時代の彫刻を模した石膏像をモチーフとする。この時代の彫刻は、理想的なプロポーションやバランスの取れた量感を表現の核としているため、描くこと自体が美しいものに触れることになる。また白無地であることでデッサンの基本的な形や明暗を描くトレーニングに適している。</p> <p>次に、モチーフの形態と背景について学んでいく。単一の幾何形体を描くことはデッサンの基本、複数の幾何形体を描くことは形体同士の関係を描くこと、さらに複数のモチーフと背景の関係を描くのは、画面全体の作画表現を考えることにつながる。</p> <p>石膏デッサンを通じて人間の形を学ぶと共に、デッサンの基本を学ぶ。また素材の違いによる表現の違いも体験する。</p> <p>人間の理想美を追求した彫像には技巧を超えた表現がある。まずは目の前の石膏像と向きあって、そして像の中から惹かれるものが感じられれば、そこからデッサンは始まる。</p>			
授業計画 及び 学習の内容				
デッサン I-1, 2				
木炭素材とその扱い方、デッサン用具の使い方、モチーフの観察の方法を学ぶ。				
石膏像(幾何形体)のデッサン制作・講評				
デッサン I-3, 4				
石膏像(首像)のデッサン制作・講評				
デッサン I-5				
モチーフの形態と背景について制作を通じて考察する。モチーフは幾何学的な球、円柱、円錐、角柱。背景の異なるモチーフを2つセットし、2点の静物画を描く				
デッサン I-10				
首像から胸像へ、人体彫刻の上半身がテーマ。首像にくらべ複雑になった形態、各部の形を描くとともに各部の相互の関係をとらえ、描写する				
木炭を使った通常の石膏デッサン、ドゥ・クレヨン手法によるデッサンの2枚を制作する。				
成績評価の方法				
成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
担当教員は、一般企業において長く商品アート制作、商品デザインに従事。また美術館と大学の共同プロジェクトにも参加し、社会活動も行っている。				
授業初日持ち物 木炭・鉛筆デッサン用具一式、 木炭紙、TMKポスター(B3×2枚、B2を半裁する) クロッキー帳、クロッキー用具		学校で準備する教材など 基礎形体、幾何形体、石膏像(ラポルト、アマゾン、パジャント、ブルータスなど) サッカーボール、着色した瓶、幾何形体を含む静物、 スライド、プロジェクター、スクリーン		
配付資料				

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科		2020年度	前期・後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	デッサン基礎 II	実習・実技	大家泰仁、武井好之	4

授業の到達目標	対象の内部の構造を見る力を養う。人体の構造を理解し、骨格と筋肉を把握する。 人体描写の基礎を学び、ありのままの人体描写を追求する。 動物主体のデッサンでは、自然なプロポーション、質感を表現できるように。物と物との関わり合いの表現ができるように。
---------	--

授業の内容	<p>人体デッサンは、通常、身体を外側から観察して描く。ただ身体の外見は、骨格や筋肉等内部の構造と表裏一体にある。身体の外側と内側の両面からの作画を通じて、人体の形の理解を高める。</p> <p>自画像は画家にとって普遍的なテーマの一つ、自分自身をモチーフとすることで、角度や表情あるいは光の当たり方なども自分の望みどおりに選択することができる。いくつかのエスキースの中から自分の課題を見つけ、鉛筆デッサンをする。絵画は最終的に全て自画像であるともいえるように、改めて鏡に向かい自分自身を見つめることで新たな発見があるはず。</p> <p>通常、人体デッサン(習作)を描く場合、画面にモデルの全身を収めるよう「全身像」、あるいは「半身像」で描く。ここには構図の取り方、プロポーションや重心、バランスなど人体を描くうえで不可欠な作画上の要素がある。一方人体の描き方は時代とともに広がりを見せ、現代では作家ごとの自由で様々な人体表現がある。人体表現には既成概念のない視点が求められる、と言っても過言ではない。見えるもの、気になるものを直接的に写し取る、「部分」を直に描くこともデッサンの一つのあり方である。クロッキーで人体の全身像を描く、プロポーション(比例)、コンポジション(構造、組み立て)、ムーブマン(動勢)、マッサ(塊、量感)という概念を把握し、表現していくことを心掛ける。デッサンでは各自の視点からモデルの描きたい部分を自由にピックアップする。例えば、「背中」「腰」「顔と肩」など身体の気になる箇所から重点的に描く。先入観に捉われず、興味のある部分をありのままに描くこと、じっくり納得のいくディテールを描くことが目的となる。</p> <p>動物主体のデッサン、動物はく製は静物のモチーフとして魅力のあるものである。もちろん生き物ですから有機的な形態、表情、色合いなど人工物と組み合わせることでより一層デッサンを楽しませてくれる。大きめなモチーフのなかからどこを見せ場にするかや、各自の興味、視点が強く出せると思われる。</p>
-------	--

授業計画 及び 学習の内容

デッサン I-6	30分ほどスライドを使い前提講義。人体の骨格に焦点を当て、模造紙大の画面に人体を描き、描いた像の上から骨格を描く。
デッサン I-7	自画像デッサン。B3の画用紙に鉛筆でデッサンする。
デッサン I-8	人体の全身(マクロ)を描くクロッキーと、部分(ミクロ)を描くデッサンの二つの取り組みを行う。全日程同一モデル、同一固定ポーズ。
デッサン I-9	動物のはく製をデッサン。
クロッキー I 着衣・ヌード	ヌードと着衣、両方のモデルを描く。

成績評価の方法	成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。
---------	--

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)	
教員プロフィール参照	

授業持ち物 鉛筆デッサン用具一式、 木炭デッサン用具一式 クロッキー帳、クロッキー用具	学校で準備する教材など スライド モデル 動物剥製などのモチーフ
--	---

配付資料	
------	--

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科		2020年度	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	美術表現演習	実習・実技	菊地達也 清水健太郎	2
授業の到達目標	<p>修了制作に向けての初段階として、自身が興味あるモチーフやテーマについて探り、作品化するにあたっての造形的思考を深めるためのプロセスを体験する。 上手に描くのが目的ではない、むしろ下手で丁寧、真面目な作品が次の作品で効果を出す。</p>			
授業の内容	<p>「見えていない部分を描く」という課題では、モチーフを見て描くこと以外の可能性を試みていく。 トレーニングは観察描写としてのデッサンから、想像を具体的な形として描くことに発展させてゆくことが狙いであり、今後の制作活動を支えていくと考える。 来るべきAI時代は個性が重要視される。その個性に説得力を持たせるカリキュラムである。今風に言うなら、3Dソフトを統一規格のPCではなく、個性豊かな皆さんの脳にインストールすることだろうか？ 「エスキース実習 I」では、表現への多様なアプローチの紹介、資料の収集と扱い方、イメージと素材の関係、複数のエスキースによる多角的表現の模索、テーマや独自の視点の掘り下げ、以上を講義と実習をとおして学ぶ。完成度より、アイデアやイメージの積極的な創出を期待する。</p>			
授業計画 及び 学習の内容				
課題「見えていない部分を描く」				
<p>前提講義・プロローグの後、制作。 モチーフ、資料の通り描くのではなく、ある条件のもとに制作する。</p>				
課題「エスキース実習 I 自由素材」				
<p>画材、支持体の素材は自由。サイズはB2～B3程度、1～2点制作のこと。 各自制作にむけてのモチーフ(持参可能であれば)や資料(写真や印刷物など)を用意すること。</p>				
成績評価の方法				
<p>成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。 作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。</p>				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
教員プロフィール参照				
授業持ち物 鉛筆デッサン用具一式、 クロッキー帳、鉛筆(3H～4B)、計り棒、目玉クリップ、ネリゴム、カッターナイフ		学校で準備する教材など 鏡(大・小)、イーゼル		
配付資料				

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科		2020年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	美術表現基礎 I	実習・実技	清水健太郎 結城康太郎 飯美樹	4
授業の到達目標	絵画基礎 I : 画材についての基本的な知識を身に着けるとともに、絵具の持つ表情の豊かさを探る。 絵画 I - 1 : 今後油絵を描いていくうえでの基本的な知識を知り、油絵を描いていく上での手順を学ぶ。 絵画 I - 2 : 構図の考え方、下書き、着色(色置きや混色)、筆の使い方による表現の変化、可能性 パレットナイフなど関連用具に使い方、下地の考え方と作り方			
授業の内容	絵画基礎、絵画 I - 1 静物画課題の取り組み方を理解し、構図・下書き・着色、それぞれの手順や留意点を学ぶ。 絵画 I - 2 2枚目の油絵画となるので、1枚目で覚えた手順を繰り返し、流れとして把握できるようにする。			
授業計画 及び 学習の内容				
絵画基礎 I、絵画 I - 1				
絵具の構造や特性について、画材の準備や扱い方について				
支持体について(キャンパスの張り方)、絵具による混色とマチエールの多様性				
制作の準備及び基本的な政策手順の解説、パレットへの色置き、混色				
明暗と色彩の関係、構図の考え方、画布への表現の多様性、質感表現				
絵画 I - 2				
前提講義後、制作(4週間)				
成績評価の方法				
成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。 作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
教員プロフィール参照				
授業持ち物 油絵用具一式 クロッキー板、クロッキー用具 F10号キャンパス	学校で準備する教材など デモ用の用具、キャンバス張り器、金づち、ベンチ、木枠、カットキャンパス、キャンパス用釘、無地布+柄布 幾何石膏 その他、質感と色の異なる物を数点(ガラス器、瓶、ホーローなど)			
配付資料				

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科		2020年度	前期・後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	美術表現基礎Ⅱ	実習・実技	清水健太郎 結城康太郎・菊池達也 塚本聡・永井俊一	6

授業の到達目標	<p>絵画Ⅰ-3: 日常空間に潜む造形的魅力を見つける視点を養うとともに、目の前に広がる大きな空間を、以下に絵画として豊かに置き換えるかを模索する。</p> <p>絵画Ⅰ-4: 油彩、水彩それぞれの画材の段階的のプロセスを実習を通じて習得していく。絵の具の特質を理解し、形体と色彩を統合した空間表現を学んでいく。</p> <p>絵画Ⅰ-7: 構成力を高めることと、空間への意識を深める姿勢を修得すること。 パレットナイフなど関連用具に使い方、下地の考え方と作り方</p>
---------	---

授業の内容	<p>絵画Ⅰ-3 風景画 パースペクティブ(透視図法)の理解 奥行きや前後関係の表現 光と影による造形的展開 空間トリミングや構図、要素の構成について 以上を、講義と実習を通して学ぶ。</p> <p>絵画Ⅰ-4 人体ヌード 静物画実習の油彩画・水彩/パステル画、デッサンにおける人体の認識を踏まえ、人体表現を学んでいく。 肌色とその明暗表現を、過去の巨匠たちの作例を参照しながら研究する。人体をデッサンの時と同様に構造として理解し、プロポーション、コンポジション、ムーブマン等に留意する。</p> <p>絵画Ⅰ-7 大型静物 ほぼ全てのモチーフを描くこれまでの静物画とは異なり、与えられた大型モチーフの部分を切り取って描く。主役となるモチーフ部分を決め、自分の考えをよりよく表現できる構図を熟考してください。例外としては、色、光や影、空間などを主役的に扱うことも可能。また今回の課題では、複数モチーフの関係やそれをとりまく空間を意識して制作することが重要である。</p>
-------	---

授業計画 及び 学習の内容	
絵画Ⅰ-3	
風景画	
前提講義のあと、3週間で制作	
絵画Ⅰ-4	
人体ヌード	
前提講義のあと、3週間で制作	
絵画Ⅰ-7	
大型静物	
前提講義のあと、1週目はアイデアスケッチとエスキースによる構図の検討。2週目以降、20号以内で作品制作。	

<p>成績評価の方法</p> <p>成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。</p>
--

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)

教員プロフィール参照

<p>授業持ち物</p> <p>クロッキー帳(エスキース用)、鉛筆デッサン用具一式 油絵用具一式、10~15号キャンバス 大型静物画では20号キャンバス</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <p>モデル 静物モチーフ 車輪、ギター、石膏像、ピン、椅子、ロープ、レモン、ポスターなど</p>
--	--

配付資料

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科		2020年度	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	美術表現基礎Ⅲ	実習・実技	関水英司 森吉健・中嶋明 中嶋明・菊地達也	4
授業の到達目標	<p>絵画Ⅰ-5:デッサンから始め、構図等をきめていく。モンタージュのように場面場面の写真を組み合わせるのではなく、貼り込む物は写真を含め、あくまでモチーフを描く描画材として扱う。全然関係のない写真や印刷物が、モチーフを形成してゆく様を確認しながら、ある種の統一性を見極め作業を進める。</p> <p>絵画Ⅰ-6:骨格や筋肉などの構造、全体と部分の関係性を理解する。石膏デッサンなどの経験を踏まえ、とかく情緒的に見がちな顔を客観的に観察する態度を身に着ける。</p> <p>絵画Ⅰ-8:人体デッサン(着衣)から構図を考えて、図面構成するにあたりエスキースが欠かせない。エスキースに時間をかけて作品の構想を練る視点を大切にしてほしい。油彩画の良い点は思い切った変更が可能ということ。制作を進めながら必要に応じて引き返す勇気をもってほしい。</p>			
授業の内容	<p>絵画Ⅰ-5 静物 コラージュからの制作 絵画制作発想(コラージュによる制作) ピカソ、ブラックが始めたと言われる技法で正に現代絵画の扉を開くものとなった。 画面に新聞紙等の印刷物を貼り込んで制作する技法である。仕上がった時もその印刷物が絵の一部となり、必要不可欠な存在になって完成度をより高めるものでなければ意味がない。 当時は絵の一部に印刷物を貼り込む程度だったが、今では画面全体がコラージュで埋め尽くされる作品もあり、さらには立体まで貼り付けるもの(アッサンブラージュ)が登場し多様化している。 一般的には対象物を描くとき、それに相対し絵の具や技法を自ら選択し作業を施していくため、絵は良くも悪くも描き手の個性や癖で飽和状態になっていく。そんな中に投入される印刷物等はそれらが介在しない分、業とらしさが無くリズムの変化をもたらし、絵を活性化してくれる。適切に選択されたものは画面上において、そのもの自体も良く引き立ち、周囲とも響き合う。授業では、画面全体を原則コラージュで制作するが、加筆も限定的に施し完成させる。</p> <p>絵画Ⅰ-6 肖像画 顔を中心に鉛筆、もしくは木炭のデッサンから始め、人物の上半身を肖像画として描く。長い歴史の中で描かれてきた数々の名画を参照し、自分のスタイルを探りながら描いていく。個人としての人物を描きながら、人類として普遍的である人間の顔を描く。</p> <p>絵画Ⅰ-8 人体 着衣 人体を描く2回目の授業。 人体デッサンはデッサン力をつけていく上で欠かせないトレーニングであることは度々伝えられている。2回目の人体制作は着衣になりますから、人体と衣服の関係性をしっかり把握することが大切。また、そのデッサンに基づく</p>			
授業計画 及び 学習の内容				
絵画Ⅰ-5				
静物 コラージュからの制作				
前提講義のあと、4週間で制作				
絵画Ⅰ-6				
肖像画				
前提講義のあと、2週間制作				
絵画Ⅰ-8				
人体 着衣				
前提講義のあと、2週間半で作品制作。				
成績評価の方法				
成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講義会に出席する事を条件とする。				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
教員プロフィール参照				
授業持ち物 新聞紙(英字がおすすめ)、写真や印刷物、和紙、その他平面に添付可能なもの 油彩以外の絵具、インク、接着剤、カッター、はさみ スケッチブック(クロッキー様)、画用紙(B2) 鉛筆、木炭 TMKポスター-(B3)もしくは木炭紙 10号キャンバス、油彩道具 デッサン用具一式、12・15号キャンバス		学校で準備する教材など 水張り用パネル、水張り道具 モデル		
配付資料				

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科		2020年度	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	美術表現基礎修了制作	実習・実技	中嶋明 菊地達也 永井俊一 浅野純人	6
授業の到達目標	外部に発表し、鑑賞されることを目的とした作品を制作する			
授業の内容	<p>修了制作について 本校は1年制の学校であるため、1年毎に修了となります。そのため1年間の学習の成果を問う形で、毎年修了作品を制作します。 現時点での各人の制作スキルを活かし、制作テーマを考え、集中的に作品を制作する機会が修了制作です。各人の制作の構想、エスキースを元に先生方と相談しながら進行していきます。</p> <p>以下より選択してください。 テーマ ・静物 ・風景(室内も含む) ・人物</p>			
授業計画 及び 学習の内容				
前提講義後、制作(9週間)				
成績評価の方法				
成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
教員プロフィール参照				
授業持ち物 クロッキー帳(エスキースにも使用)、デッサン用具一式、12~15号キャンパス、油彩道具		学校で準備する教材など モデル		
配付資料				

開講課程	開講学科	開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科	2020年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	表現演習基礎	講義・演習	木村繁之

授業の到達目標	<p>色彩構成Ⅰ:様々な参考資料の画像を基にした講義や「トータルカラー」を使用した実習により、色彩について興味を持って学習し、作品制作の際に色彩をコントロールする知識を養う。</p> <p>ドローイングⅠ 伝言模写:他者の眼を取り入れることで自身の絵から離れ新たな絵を探る。</p> <p>塑像Ⅰ 粘土・野菜:物の構造、質、量感など、立体の見方を習得する。</p>
---------	--

授業の内容	<p>「色彩構成」 自然物・人工物を問わず、私たちの周りは様々な色彩に満ち溢れている。 いったい世の中にはどのくらいの数の色味があるのだろうか？ また、これらの色彩を自分の作品の中に表現するには何色の絵の具を使えばよいのだろうか？ 色は、その1色だけではなく周囲との関係性によって認知される。色相・明度・彩度など、色の特性を学び、色に関する知識を深めることによって、作品の意図を伝えるための色彩表現の幅を広げよう。 *事前課題:「色」に関する思い出やエピソードを考えておくこと (例)好きな色の服や好きな色の組み合わせ 世界の国旗や様々なブランド、スポーツチームなどのイメージカラー 好きだったおもちゃ、雑貨、絵本の表紙、映画のポスターなど</p> <p>「ドローイング 伝言模写」 絵の発想や題材は自身の興味嗜好、憧れや模倣から始まる事が多く、自身でつくりあげた個性に縛られて新たな展開につながりづらい傾向がある。 ここでは他者の眼を取り入れることで自身の絵から離れ新たな絵を探る。</p> <p>「塑像 粘土・野菜」 モチーフをよく観察していると、それ自体がどのように成長して、現在の形を得ているかという動きがみえてくる。 外側を輪郭的に、あるいは色で捉えるだけでなく、物の構造や量感、内部で動いた力の方向性と表面の質の関係などに着目し、表現することを試みる。</p>
-------	--

授業計画 及び 学習の内容	
色彩構成	
色に親しむ	
色の三属性①色相②明度③彩度	
色の効果	
講評 まとめと振り返り	
ドローイング伝言模写	
最初に絵画、彫刻、写真などから模写→隣の人から渡された絵を模写→新たに渡された絵を模写	
模写に解釈や加筆を加えてもよい。自身が普段興味を持たない題材を、模写という半ば縛られた形式によって取り込む。模写への加筆は自身の発想の傾向が顕れるので自身を客観的にとらえる一助となる。	
教養としての浮世絵	
塑像Ⅰ 粘土・野菜	
モチーフは野菜	

成績評価の方法	<p>成績は、提出された課題作品が授業の到達目標を満たしているかを見極め、100点を満点として採点する。 作品制作中に担当教員の指導を受ける事、講評会に出席する事を条件とする。</p>
---------	---

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)	<p>国内外の美術館、大学にて講師をつとめる。装丁装画、新聞挿絵、絵本なども手がける。</p>
----------------------	---

授業持ち物	<p>【色彩構成】 スケッチブック、はさみ、カッターナイフ、のり 筆、パレット、筆洗</p> <p>【ドローイング伝言模写】 絵画・彫刻・写真・イラストなどから気に入った画像1枚 描画材は各自、自由(木炭、鉛筆、ペン、マーカー等)、用紙は学校で用意(用紙代は集金します)</p> <p>【塑像Ⅰ 粘土・野菜】 作業着、クロッキー機、描画道具、粘土ペラ</p>	<p>学校で準備する教材など アクリルガッシュ、筆、トータルカラー、課題用紙、カッターマット、ホッチキス、PCと画面 A2トレーシングペーパー、画用紙(B3サイズ)、木炭紙(木炭紙大の半分)←用紙代金は集金します モチーフ用野菜、心棒の道具、粘土、回転台、塑像版、ゴミ袋、粘土へら</p>
-------	--	---

配付資料	
------	--